

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

○「地域に学び地域とともに歩む学校」

目標：学校像	地域に信頼され誇りとされる学校、進路実現を支援する学校
：生徒像	自律心に富み心豊かでたくましく、時代を創造し地域社会を支える人材
：生徒に育む力	希望に応じた進路実現する力（確かな学力、進路を見極めるキャリア意識、豊かな人間性・社会性）
教育活動の特徴	・普通科総合選択制のメリットを活用した教育活動（特色あるエリア活動の展開） ・地域との連携のもと、地域の社会資源を活用した教育活動

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) エリア改編に基づき、普通科総合選択制高校として、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育を推進する。
- ① エリアの内容、エリア指定科目・自由選択科目について柔軟な見直しを図り、生徒の満足度を高める。
*「学校教育自己診断」(生徒)での入学満足度「入学してよかった」(平成25年度82%)を3年後に90%に引き上げる。
- ② 府立高等学校再編整備方針に基づき、本校としての普通科専門コース制の在り方を検討する。
- (2) 新学習指導要領を踏まえ、「わかる授業、充実した授業」をめざし絶え間ない授業改善に取り組む。
- ① 授業力向上委員会を核に、公開授業、研究授業、相互参観、授業アンケートを活用した授業改善に組織的に取り組む。
*授業アンケートによる5つの授業評価軸平均(平成25年度2回目3.076)を毎年引き上げ、3年後に3.15をめざす。
- ② 学校経営推進費を活用しICT機器をとり入れた授業を展開することにより、教員の授業力及び生徒の授業満足度の向上をはかる。
*「学校教育自己診断」(教員)での「コンピュータ等のICT機器を授業などで活用している」(平成25年度51%)を3年後に70%に引き上げる。

2 進路指導の充実

- (1) 学習指導と進路指導を連結させ、生徒の希望する進路の実現を支援する。
- ① 全校的な取り組みにより、生徒の自学自習の習慣の確立を図る。
*「学校教育自己診断」(生徒)での「家庭での予習・復習など学習時間を確保している」(平成25年度31%)を3年後に40%に引き上げる。
- ② 放課後や長期休業中の組織的な補習・講習体制の確立に取り組む。
*「学校教育自己診断」(生徒)での「学校は放課後や長期休業中の補習・講習を十分行っている」(平成25年度61%)を3年後に70%をめざす。
*スタディサポートでの「家庭学習の時間」(1・2年)(平成25年度46%)を3年後に60%をめざす。
- ③ 3年間のすべての教育活動を通じたキャリア教育の推進方策を実施する。
*学校教育自己診断での進路指導満足度(平成25年度75%)を毎年引き上げ、3年後に84%をめざす。
関西8私大への進学希望者合格率(平成25年度36%)を、3年後に50%をめざす。

3 生徒指導の充実

- (1) 学校全体で生徒指導に取り組み、基本的生活習慣の改善・定着を図るとともに、マナーや規範意識を醸成するなど社会性の向上を図る。
- ① あいさつ、身だしなみ、美化活動の改善・定着に向け、全教職員での取組みを図る。
*学校教育自己診断での「基本的習慣の確立に力を入れている」の肯定的回答(平成25年度63%)を毎年引き上げ、3年後に70%をめざす。
- ② 全教職員による遅刻指導を強化する。
*年間遅刻数を3年間で3割減をめざす。

4 地域と連携した安全安心で魅力ある学校づくり

- (1) 地域と連携し、地域の社会資源を活用した教育活動を展開する。
*「学校教育自己診断」(生徒)の「授業や部活動などで地域の人々とかかわる機会がある」(平成25年度54%)を毎年引き上げ、3年後に60%をめざす。
- (2) 特別活動や部活動を通じて、生徒の自主性や社会性を醸成する。
- ① 全ての特別活動に、生徒育成にかかる目的を明確に位置付け、生徒の主体的な行動を促す仕組みを構築する。
*学校教育自己診断の学校行事満足度(平成25年度73%)を毎年引き上げ、3年後に80%をめざす。
- (3) 人権尊重の教育、心の教育を充実させ、生命と人権を尊重し、他者を思いやる豊かな人間性を育む。
- ② 「人権教育基本方針」などに基づき、人権教育を推進する。
*学校教育自己診断での学校の人権意識育成姿勢の肯定的回答率(平成25年度68%)を毎年引き上げ、3年後に75%をめざす。
- (4) 学校教育活動全体を通して組織的・計画的に学校保健活動を展開する中で、生徒の健康教育の推進や、清掃活動への徹底を促す。
*学校教育自己診断で、学校の美化環境の肯定的回答率(平成25年度55%)を毎年引き上げ、3年後に65%をめざす。
- (5) 学校の危機管理、安全確保について、教職員の意識の醸成をはかる。
- (6) 教育相談体制の充実を図る。

5 学校経営・運営体制の強化

- (1) 学校運営の機動性を高めるため、組織力の強化を図る。
- ① 学校運営の機動性を高めるため、運営委員会や将来構想戦略委員会の活性化を図る。
- ② 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る。
- ③ 教職員に一体感を醸成し、組織間連携の円滑化を図るための仕掛けづくりを行う。
- (2) 校務処理システムの活用による校務の効率化を図り、教職員の事務作業の軽減化を図る。
- (3) 開かれた学校づくりの推進
- ① 学校運営への一層の協力・理解を求めるため、保護者に対する情報提供の工夫を凝らす。
- ② 地域に信頼され誇りとされる学校をめざし、本校の教育活動の内容を積極的に情報発信する。(中学校・塾などへの訪問活動の充実等)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年12月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年に比べ生徒編、保護者編で、評価が平均 5P あがった。一方、教員編はほぼ横ばいであった。全体的には、学校の取組内容について生徒が理解度を深め、保護者に情報提供が徐々に進んでいると思われる。 ・保護者の回答率が 48%から 75%へ急上昇したのは、家庭との日常連絡の成果であり、継続していかなければならない。 ・生徒の「本校に入学してよかった」が毎年上昇しており、86.6%となった。特に3年生の評価が高い。 <p>【学習指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上に向けた取組を昨年度に引き続き実施している。「教え方に工夫をしている先生が多く授業はわかりやすい」の生徒の肯定的な回答が 63.0%→67.6%と上昇しており、少しずつ効果が出ているが、教員の「指導方法の工夫・改善」自己評価 79.4%に比べると低く、その原因と改善が課題となっている。 ・「ICT機器の活用」については、生徒の肯定的な回答が 55.7%→65.4%と増加し、ICT機器の活用が着実に進んでいることを示しているが、活用している教員の割合が 60%で、より一層の活用をめざして、研修等を実施していく必要がある。 ・生徒の「補習・講習が十分やっている」が毎年上昇しており、67.6%となったが、「家庭学習時間の確保」については、32.6%と低迷しており学習習慣の定着への働きかけの工夫がいる。 <p>【生徒指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の「生活指導は適切である」や保護者の「生徒指導方針は理解できる」は昨年に比べて少し上昇している。今後も本校の方針の理解を得ながら生徒指導を進めていきたい。 ・生徒の「進路指導等が適切に行われている」や保護者の「将来の進路について適切な指導を行っている」も昨年に比べて少し上昇している。これは、進路指導やエリア・科目選択については、年2回の懇談や各種説明会できめ細かま相談体制ができつつある効果と思われる。 ・「文化祭、体育大会などは楽しく行えるよう工夫がある」については、生徒保護者とも8割ほどが肯定しており、今後も生徒の主体性を大切にしながら取り組んでいきたい。 ・年度当初の部活動体験期間の設定など地道な生徒への働きかけで、「部活動を積極的に取り組んで」が 55.3%→66.6%と急上昇している。 ・数多くの地域連携行事が定着したことによって、生徒の「地域との交流がある」が年々上昇している。 <p>【学校運営等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学年や部では意思統一が行き渡り、「学年・分掌の仕事は組織的に行われている」について、教員の肯定的回答は 65.1%と毎年上昇している。しかし、「分掌・学年等の連携はうまくいっている」については、毎年上昇しているとはいえ 41.3%と低い。学校全体として、組織的な運営が依然として課題となっている。 ・「教育情報の提供」については、保護者の肯定的回答が 73.5%、教員が 79.4%と、保護者と学校との認識のずれが縮まった。 	<p>第1回 (6/14)</p> <p>○授業見学を見終えて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語が苦手な生徒も多いと思うが、英語の授業（T-NETとのチームティーチング）で英語に興味を持ってもらえれば、それが切り口となって好きになってもらえればと思う。 ・授業で発言する機会を増やして、自分で考え発言する生徒の育成に力を入れてほしい。 ・T-NETの授業は生徒の授業への参加が保障されている。理科の授業で終わり5分で実験ができるのは授業規律ができていて、質が高いと思う。 <p>○地域連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駅から学校までの川沿いの道は暗く、ひたたりや痴漢がでることから防犯カメラの設置（犯罪55件から3件に減少）や街灯の設置を行った。今後も防犯に協力したい。 ・自治会の協力で防犯カメラや街灯を設置していただきありがたい。小学校、中学校とも連携して改善できるところは要望をしていきたい。 ・今年度の入試の定員割れについて1クラス増学級や学区撤廃の影響はあったものの、地元地域に根ざした学校にしてほしい。 <p>○高校入試、学校広報について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前期入試を受けた生徒の中には前期の倍率をみて、後期入試を別の学校にした生徒もいた。入試制度内容についても検討をするように関係機関に要望してほしい。 ・入学定員割れに伴い、今後の広報活動が重要視されてくる。検討してほしい。 ・広報面では、流失を食い止めるとともに流入を促進する戦略が必要である。 <p>第2回 (10/9)</p> <p>○授業アンケート（1回目）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年のクラス別での差はなぜか。教員の意欲の差がクラス間の差になっていないか。 ・先生の仕事の割合はどうなっているのか。忙しい時間の中、軽減対策はどうか。 ・先生の仕事内容を見える形にして、タイムスケジュールを書いて分析を行い、見直しをしていかなければ解消につながらない。 ・今後生徒に真剣に答えさせるために、結果の生徒へのフィードバックを丁寧にやってもらいたい。 ・授業力向上の取組みにたいへんな労力をかけているのだから、結果に基づく改善を組織的に実施する必要がある。 <p>○ここまでの本校の教育活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のアンケートを反映させた取組みをされていて、成果を上げている。 ・遅刻者数が若干増えているが、原因はどのあたりにあるのか。また、欠席する生徒は増えているのか。厳しい指導は難しいのか。 ・近隣の人たちから、通学途中の自転車のマナー（無灯火等）やスカートの丈について話を聞くので、しっかり指導をしてください。 ・協議会の意見を取り入れて、前向きに取り組んでもらっている。 <p>第3回 (2/9)</p> <p>○学校教育自己診断結果、普通科総合選択制アンケート結果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校満足度は安定している。PTA活動が活発との評価は嬉しい。 ・生徒指導については、全員で意思統一して生徒に言うべきである。 ・模試等を増やすのも一法。懇談の工夫が必要なのではないか。 ・評価は長いスパンで見る必要がある。プレゼンテーション力向上については、小学校では授業で必ずしゃべる場面の設定をしている。 ・一方通行の授業からの改善（グループワーク等）をお願いしたい。生徒参加型の授業は力が付く。（生徒が考える、教員は支援） ・生活指導の肯定率が上がるのは先生方の努力のたまもの。講習をタイムリーに行い、学習習慣のきっかけ作りとするのも一法かと思う。 ・学校全体で自己診断結果の丁寧な回答が必要である。 ・自己診断の良い結果をHPにタイムリーに掲載する戦略が必要である。 ・大学に入って、伸びる高校と伸びない高校がある。合格だけでなく、その後も考えた進路指導を構築してほしい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 普通科総合選択制高校としての特色ある教育課程の編成</p> <p>ア P T の編成とエリア選択の課題等の抽出・対応策の検討</p> <p>(2) 新学習指導要領を踏まえた授業改善の取組み</p> <p>イ 教員の授業力の向上</p> <p>ウ 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成</p> <p>エ 学校経営推進費を活用したICT機器の導入による授業改革</p>	<p>ア 将来構想戦略委員会等による組織の活性化(首席を中心に5名程度のPTを編成)</p> <p>①今後のみどり清朋高の在り方について エリアの諸課題(自由選択科目の決定方法の明確化等)の検討、普通科専門コース等の検討</p> <p>②校内組織の活性化 分掌の見直し、職員会議の運営方法の見直し、校務処理システムの活用</p> <p>イ 授業力向上の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業力向上委員会を中心に、本校生徒にとって力を伸ばす「確かな学力」を身に着ける方策についての検討協議 研究授業推進月間の設定、教科毎の公開研究授業、相互授業参観の実施(年間2回、6・11月頃) 小・中学校との授業交流 授業評価アンケート(年2回)、授業評価に基づく校内研修会の実施(評価結果は生徒に還元し、双方向の授業改善に活用) 実習・体験学習の推進(校外も含む) 授業における学校外の人材の積極的活用(教科、エリア、総合学習) 海外修学旅行での交流等を活用した、生徒の英語学習への動機づけや英語力の強化 English Lounge ・短期留学・英語合宿等 勉強合宿の実施 スタディサポートを活用した学力分析に伴う学習指導計画の策定 <p>ウ 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 新任・若手。ミドル養成講座等の開催 自主的な校内研究会の立ち上げ ミドルリーダーによる伝達講習会の開催 <p>エ ICT機器をとり入れた授業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT活用研究(WG設置、他校視察、活用授業) ICT教材等の共有化をはかる。 ミニ研修の実施 	<p>ア、イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)での入学満足度「入学してよかった」H25年度82%を引き上げる。H26年度は85%。 学校教育自己診断「エリアや授業は役だつ」H25年度76%を引き上げる。H26年度は79%。 授業アンケートの5つの授業評価軸平均(H25年度1回目3.062、2回目3.076)を毎年引き上げる。H26年度は3.10。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 各講座、年10回 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(教員)コンピュータ等のICT機器を活用している」H25年度51%を引き上げる。H26年度は57%。 	<p>ア・平成28年度からの普通科専門コース設置に向けた構想段階からコース設置、教育課程等を将来構想委員会で検討した。また、職員会議の運営を見直し、各学年分掌でエリアの諸課題を検討実施した。次年度は専門コース等の内容精選と在校生のエリア諸課題を取り組むことによって組織の活性化を促進したい。「入学してよかった」82%→87%(◎)</p> <p>イ・授業力向上の取組として、教員相互の授業見学期間を年2回設定し、見学後に小グループで意見交換、全体で発表を行った。また、授業アンケート結果に基づく個人のセルフチェックと教科での振り返りを行い、生徒へ結果を還元した。次年度はアンケート1回目から2回目の間の改善をより明確にするよう努めたい。「エリアや授業は役だつ」76%→74%、授業アンケート5つの授業評価軸平均(1回目3.10、2回目3.10)(○)</p> <p>ウ・小中学校との授業交流、海外修学旅行での交流計画勉強合宿等は計画通り実施した。</p> <p>ウ・ミドルリーダー養成は、「育成支援チーム」事業の研修3回をはじめ、「将来構想委員会」における改編構想を検討する場(12回)を設けて、学校の核となる意識を向上させた。若手教員への3回の研修実施により、学校における課題認識と改編への方向性を共有した。10年経験者研修等の参加者による学年教科分掌への活性化が見られた。次年度は特に初任者、若手教員の育成に努めたい。(○)</p> <p>エ・ICT機器の活用は、環境整備によって「ICT機器を活用している」51%→60%と上昇。生徒のICT機器活用についての評価は65%とより高くなっており、次年度は目標を上方修正して取り組みたい。(◎)</p>
2 進路指導の充実	<p>(1) 進路実現の支援</p> <p>ア 自学自習の習慣づくり</p> <p>イ 組織的な補習・講習体制の確立</p> <p>ウ 3学年と進路指導部の連携強化による進路意識・キャリア意識の向上</p>	<p>ア 1年次における教科別勉強方法の徹底指導</p> <p>イ 校内講習体制の組織化</p> <ul style="list-style-type: none"> 放課後や長期休業中の講習などの充実 土曜日の講習実施の推進(定期考査時期以外の実施推進) <p>ウ 進路指導部・学年団による3年間を見通した進路計画の実施(総合学習・LHRを活用した「進路の時間」の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業観の育成などをめざした職業適性診断テストの実施 1年次からの適切な進路情報の提供により、進学や就職に対する目的意識・目標設定を促す指導(進路指導部と1年学年団) 大学見学会の実施、オープンキャンパスなどへの積極的参加を通して、進路意識を高める。 高大連携の推進、卒業生との懇談会や外部講師を招いての進路説明会などによる進路意識の向上 進路指導部と3年学年団との進路検討会の実施(1学期) 進路希望調査等の資料を活用した個人面談と三者面談、目標設定と進路実現の支援 管理職を含めた志望校検討会議 保護者向け進路講演会の開催 卒業生の模試データ等の整理収集 教員の進路指導スキルアップ研修の実施 朝学習の実施検討 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)での進路指導満足度H25年度75%を引き上げる。H26年度は78%。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)「学校は補習講習を十分行っている」H25年度61%を引き上げる。H26年度64%。 関西8私大への進学希望者の合格率を上げる。H25年度36%をH26年度40%。 自習室の活用件数の増加H25年486件をH26年+10% スタディサポート(1・2年)「家庭学習の時間の確保」H25年46%をH26年50%。 	<p>ア・入学直後に、エリアの説明とともに学習について紹介しその後は各教科で指導した。次年度も入学直後を重点とした指導を継続したい。「進路指導満足度」75%→80%(○)</p> <p>イ・放課後や長期休業中の講習、補習については、進路指導部が提案し、実施するサイクルが確立し、早朝講習も学年で取り組んだ。次年度はより充実した講習計画を立てたい。「学校は補習講習を十分行っている」61%→70%(◎)</p> <p>ウ・進路指導部と学年団がタイアップして、3年間を見通した進路計画に基づいた各種取組みを実施した。総合的な学習の時間等を利用した進路意識(職業観、目標設定)を高める適性テスト、大学見学会、進路説明会、を行った。資料に基づく面談や保護者向け説明会で、保護者の進路意識の向上を図った。次年度は3年間の進路指導計画の見直しと授業時間以外の活用を検討したい。(△)</p> <p>ウ 関西8私大への進学希望者合格率36%→7% 自習室の活用件数486件→431件 「家庭学習の時間の確保」46%→43%</p>
3 生徒指導の充実	<p>(1) 全校体制による基本的な生活習慣の改善・定着</p> <p>ア あいさつの定着・身だしなみの強化</p> <p>イ 遅刻指導の強化</p> <p>ウ 部活動の活性化</p>	<p>ア 全教職員による生徒指導体制の確立(職員会議や学年会議などにおいて、生徒指導の課題について共通認識を図り、規範意識を高め、望ましい生活習慣を確立させるため、全校体制で生徒指導にあたる)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「あいさつ運動」の展開(生徒会や生活委員を中心に) 身だしなみ(服装・言葉づかい)や自転車マナー講習会等の開催・充実 携帯指導の徹底、あり方検討 <p>イ 遅刻指導の強化(特に生活習慣の乱れによる遅刻の多い生徒に対しては、保護者との連携を強化し指導)</p> <p>ウ 部活動の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> 高大連携を活用した外部指導者の活用 中学生への部活動の見学会や交流試合の設定(みどりカップ等) 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)での「基本的習慣の確立」H25年度63%を引き上げる。H26は66%。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻数前年度比1割減 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断(生徒)での「部活動への取組み」H25年度55%を引き上げる。H26は58%。 	<p>ア・全教職員による(当番制)登校指導や共通認識のもと、登校マナーや身だしなみの指導を行った。次年度はあいさつ運動等により力を入れていきたい。「基本的習慣の確立」63%→67%(○)</p> <p>イ・全教職員による登校指導を継続しているが、遅刻件数は1クラス増でほぼ昨年と同水準。次年度は遅刻を何度も繰り返す生徒への指導の確立が必要である。(△)</p> <p>ウ・学校説明会等で中学生に部活動を見学させ、小中学校との連携行事で本校の文化部をアピールした。入学後の体験入部期間の設定や担任からの部活動参加への働きかけで、入部率が上昇した。次年度は一層生徒への働きかけと環境整備に努めたい。「部活動への取組み」55%→67%(◎)</p>

<p>4 地域に信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 地域と連携し、地域の社会資源を活用した教育活動の展開</p> <p>ア 地域交流・連携の推進</p> <p>(2) 開かれた学校づくりの推進</p> <p>イ ホームページの充実</p> <p>ウ 中学校等へのPR</p>	<p>ア 地域の学校や福祉施設をはじめとする各機関・団体などとの連携の推進 (幼稚園・小学校・中学校への出前授業、生徒の実習体験、部活動での小・中学生との交流、自治会事業への参加、地域の「地域教育協議会(すこやかネット)」への参画・協力など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣大学との地域連携 ・クラブ活動などを中心とした「出かける」地域連携 ・学校行事においてPTAとの一層の連携を図る(クリーン作戦など) <p>イ 積極的な情報発信 (本校の教育活動の内容について、学校ホームページの充実。校長ブログ以外も毎週複数回の更新)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケータイ連絡網・HPの活用 ・保護者・地域への授業見学会の活用 ・保護者に対する進路講演会をタイムリーに開催するなどにより、保護者への積極的なアプローチをはかる。 <p>ウ 学校説明会の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員による中学校への訪問活動の充実 ・出張模擬授業の活用 ・中学生への授業公開 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒)での「授業や部活などでの地域とのかかわり」H25年度54%を引き上げる。H26は57%。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日アクセス数の増加H25年度208件を1割増。 ・保護者のケータイ連絡網の加入率(H26・1現在50%)を引き上げる。H26年度中に70%。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会への参加中学生(H25年度568人)を引き上げる。H26年度は650人。 	<p>ア・地域の幼小中学校との交流、出前授業等は交流先でも好評で、文化部の生徒の達成感にもつながった。次年度は地域連携を一層推進したい。「授業や部活などでの地域とのかかわり」54%→63%(◎)</p> <p>イ・保護者への情報発信は携帯連絡網を利用し、何度も呼びかけたが、加入率が思うように伸びないので、文書による連絡も欠かすことができなかった。HPについては様々な情報の更新の頻度が不足した。次年度はHPのタイムリーな更新と携帯連絡網の加入を入学直後に徹底したい。1日HPアクセス数の増加208件→180件、保護者の携帯連絡網の加入率50%→63%(△)</p> <p>ウ・体験入学会を含めて計5回の学校説明会を実施し、中学校の教員向けの説明会や東大阪市、八尾市の中学校への訪問を行った。また、近隣中学校の学年全体での訪問の受け入れや出張授業等でも交流を深めた。次年度は改編内容の広報もあり、説明会等の時期、内容の再検討が必要である。学校説明会への参加中学生568人→734人(◎)</p>
--------------------------------	--	--	---	---